

台風23号

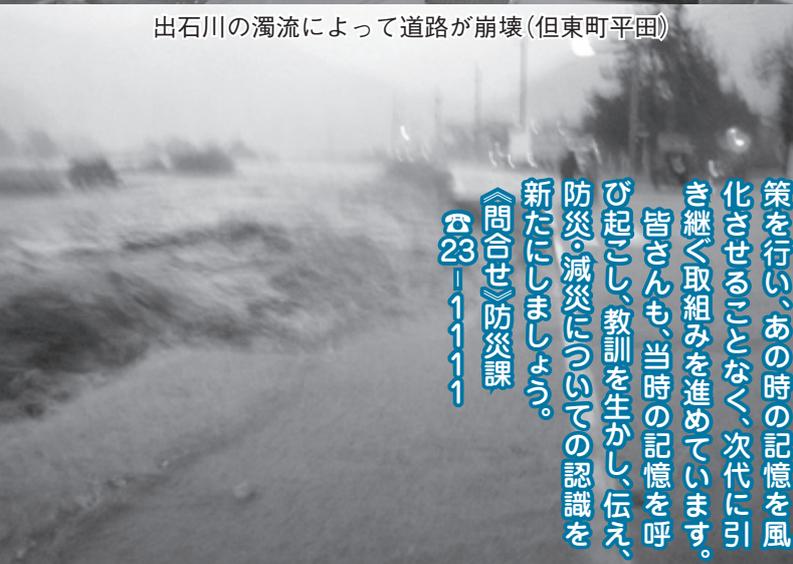
あれから5年
語り継ぐ
あの時の記憶



泥の海に沈む住宅街(江本) (兵庫県消防防災航空隊提供)

出石川の濁流によって道路が崩壊(但東町平田)

堤防の決壊により水流に押しつぶされた家屋(出石町鳥居)



平成16年10月20日に豊岡市を襲った台風23号は、私たちのまちから7人の尊い命と、市民の大切な日々の暮らしを奪い、美しかったふるさとを大きく傷つけました。

あれから5年、市では、この経験を教訓に安全・安心なまちをつくるため、防災・減災対策を行い、あの時の記憶を風化させることなく、次代に引き継ぐ取組みを進めています。皆さんも、当時の記憶を呼び起こし、教訓を生かし、伝え、防災・減災についての認識を新たにしましょう。

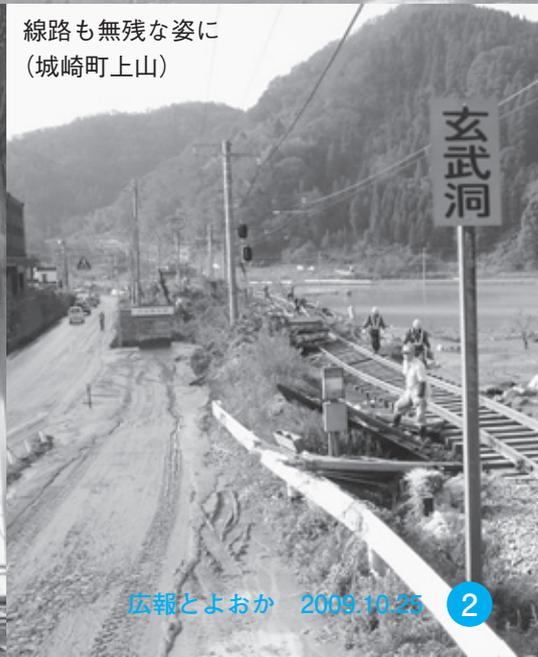
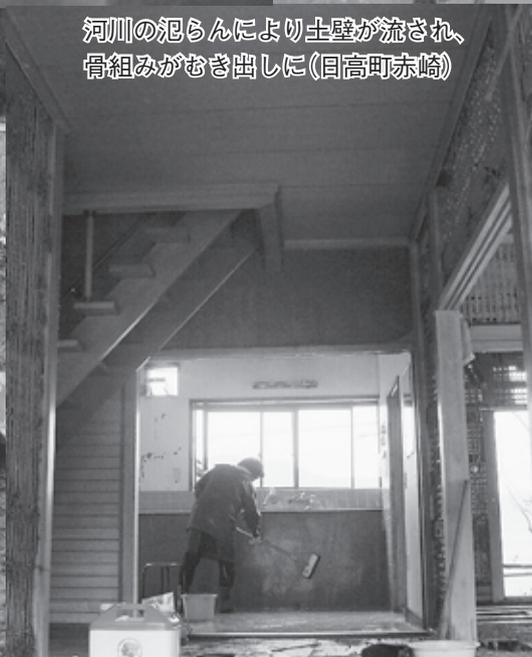
《問合せ》防災課
☎23-11111



海岸に漂着した災害ごみをボランティアが清掃(竹野町切浜)

河川の氾らんにより土壁が流され、骨組みがむき出しに(目高町赤崎)

線路も無残な姿に(城崎町上山)



5年前の記憶

●台風23号の経過

豊岡市では、10月20日正午ごろから雨脚が強まり、降り始めから午後6時までの総雨量は、豊岡地域162ミリ、出石川上流の但東町出合で228ミリ、稲葉川上流の日高町栗栖野で215ミリを記録しました。

その後も、午後8時までの2時間に円山川と稲葉川上流域では、時間雨量20〜35ミリの激しい雨が降り続き、猛威を振るいました。

円山川・出石川などの河川水位は、20日昼過ぎから増え始め、夕方に急激な上昇を見せ、台風が最も接近した午後6時から9時ごろに最高位に



▲消防隊に救出される住民(江本)
(大阪市消防局提供)

達しました。午後11時過ぎには、円山川と出石川で堤防が決壊するという不測の事態が発生し、周囲は一瞬にして一面泥の海と化しました。土砂災害も各地で発生し、建物や農地を飲み込みました。

〈台風23号の避難勧告、避難状況〉

勧告	世帯	20,668世帯
	人数	60,526人
避難者		5,628人

※避難者は、指定避難所などで確認ができたものです。

〈台風23号の被害状況〉

死者	死者	7人
	負傷者	51人
建物被害	全壊	530世帯
	大規模半壊	1,104世帯
	半壊	2,943世帯
	一部損傷	292世帯
	床上浸水	587世帯
	床下浸水	3,543世帯

●災害ごみ

旧1市5町では、台風23号による浸水などで、約36,022トンの災害ごみが発生しました。

回収した災害ごみは、市内10カ所の集積場に仮置きされ、市外からも支援を受け、平成17年5月30日までの搬出作業

〈円山川の主な洪水履歴〉

年	洪水要因	総雨量(八鹿)	最高水位(立野)
平成16年	台風23号	282mm	8.29m
平成2年	秋雨前線・台風19号	466mm	7.13m
昭和54年	台風20号	216mm	6.74m
昭和51年	台風17号	542mm	6.92m
昭和40年	台風23号	145mm	6.86m
昭和36年	第二室戸台風	187mm	6.87m
昭和34年	伊勢湾台風	240mm	7.42m



▲最後の災害ごみを積み込んだトラックを見送る

が続ききました。市内すべての災害ごみの搬出処理に約7カ月もかかりました。また、処理に要した経費は約11億円にも上りました。

台風23号災害から5年を迎えて

豊岡市長 中具宗治

台風23号災害から5年が経ちました。死者7人、床上浸水以上5、164世帯。恐ろしい経験でした。

今年8月の台風9号でも、豊岡は再び被害を受けました。実は、円山川の水位上昇のスピードは、台風23号を上回っていました。敵の足は、どんどん速くなっています。

進行中や計画中の治水事業が1日も早く完成するように、国・県に対し、強く働きかけてまいります。市も、台風に関する情報などをより早く、より正確に皆様にお伝えすることができるよう、さらに努力を重ねてまいります。

しかし、工事完成前に災害に襲われることもあり、また、人間の力を上回る自然の脅威は必ずやって来ます。そのときは、「逃げる」です。佐用町では、真夜中の避難の途中で命を落とした方が多くありました。深夜の避難、危険が目前に迫ってからの避難には危険が伴います。ですから、早めの、できれば明るいうちの自主避難が第一です。

自宅で危険が迫ったときはどうするか。堤防から遠く、内水で水に浸かる可能性だけの場合は、避難勧告が出たとしても、2階以上にいた方が安全かもしれません。

山口県で特養が土石流に襲われたケースでは、せめて2階に避難していれば助かっただろうと言われています。水の中を逃げるときは、長めの棒で用心深く前をつきながら歩くと、深みにはまる危険を避けることができます。

市民の皆様の状況は千差万別であり、市が個々人の状況に応じて避難勧告を出すことは、不可能です。逃げた方がいいのか、それとも2階以上にいた方がいいのかは、最後は皆様自身の判断です。

いざというとき、自分はどうしたらいいのか、周囲が水に囲まれているときはどうしたらいいのか、平常時にあらかじめ考えをめぐらせておいていただきたいと思えます。市は、もちろん頑張ります。しかし、「自らの命は自ら守る」、その心の構えをぜひ。